無人嶋雜記

805
25

別 14
16

国立国会図書館　タイトル『無人島雜記』　請求記号 寄別14-16

ガラス使用

小笠原嶋之圖

全

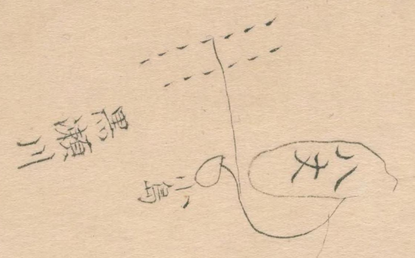
題簽 渡辺崋山筆

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用

南部領
北海



無人島
千四百九拾五里
周廻ヒキ凡八百四十四里
海ヲ示スベシ 図ノ如ク

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』請求記号 寄別14-16
ガラス使用

大島

南北五里餘東西二里半餘　下田嶋ヨリ十三里卯辰ニ當ル河津ヨリ七里東都ヨリ四十六里餘午未ニ當ル新島エ十里未ノ方相州三崎エ十八里利島エ六里

新島

南北三里餘東西一里餘　在下田奥南十三里江都ヨリ五十一里午未ニ當ル三宅エ十三里神津エ五里浦賀エ三十三里此島ニ古来ヨリ七所ノ方角ヲ記メ高札アリ　利島子ノ方大島丑ノ方下田戌ノ方富士戌亥ノ方神津未ノ方三宅巳ノ方御藏巳ノ方

上津島

南北二里東西一里餘　在下田ノ南十八里江都ヨリ五十六里午未ニ當ル三宅エ九里新島エ五里大島エ十八里

利島

方一里餘　下田ヨリ十里餘巳午ニ當ル東都ヨリ四十八里午未ニ當ル新島エ三里

三宅島

南北四里東西二里餘　下田ヨリ二十六里巳午ニ當ル江都ヨリ六十一里午未ニ當ル神津エ九里　新島エ十三里

三倉島　又作御藏

東西一里半許南北一里　下田ヨリ三十里巳未ニ當ル江都ヨリ七十里午未ニ當ル　舊三宅ノ屬島タリ　享保十四

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用

年別メ一嶋トナル

八丈島

南北七里餘東西三里餘　下田ヨリ六十四里已ニ當ル江都ヨリ一百二十里午ニ當ル　三宅記曰コノ島ハルカ沖ニ在リトテ沖島ト名ク

小島

南北一里餘東西二丁許町周回三里餘　在八丈島西二里隷八丈（レイス　シタフ　ヤウニ）

小島トハ八丈ヲ大島トシソレニ對シタル名也

青島

東西二里餘南北一里餘　在八丈島南十八里　隷八丈古名鬼島其人被髮長鬚身長色黑被木葉狀如鬼神吾邦古人怖ロシキ者ハ渾テ鬼ト称セリ

波津島

東西八町南北四町　在熱海東南三里　東都ヨリ三十六里初島ニ書

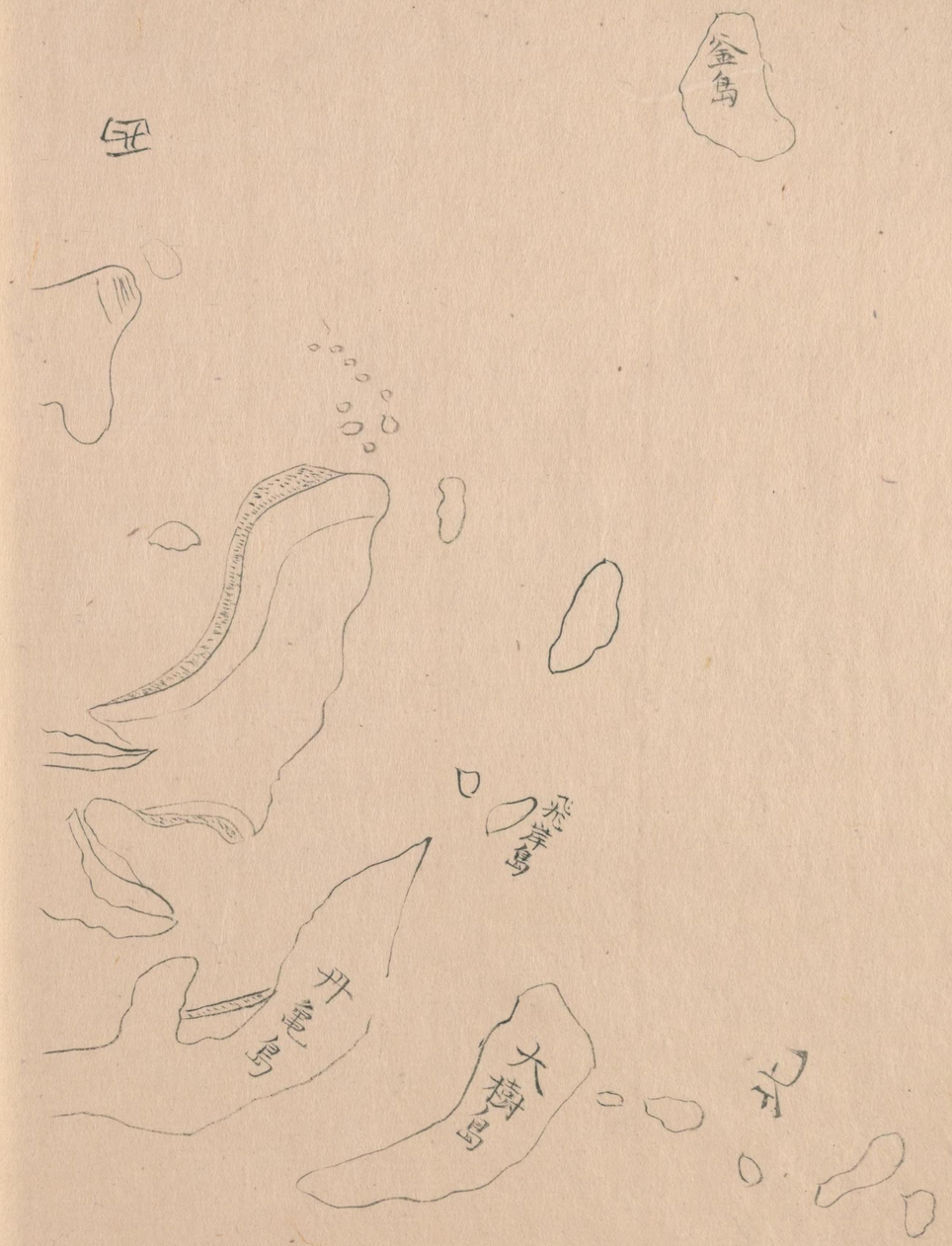
御子木嶋（ミコモトシマ）

周回二十町許リノ石島ナリ下田ノ西南五里ニアリ人家及ヒ林樹ナシ雜草少シ生セリ小池アリ濶方二歩許リ

国立国会図書館　タイトル『無人島雜記』　請求記号 寄別14-16

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用




国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用

海中有山可依曰島説文作島又作嶋山在水中曰嶼又海中洲ニモ
注ス圖経ニ曰小ニ於嶼而有草木曰苫如苫嶼而其質純石曰嶠ト島
大ニメ人ノ住居スルヲ云島ヨリ小ニメ人住居ナキヲ嶼ト云嶼ヨリ又小ニメ草木ア
ルシヽヲ苫ト云大小ニ拘ワラス一体ノ石ジヽヲ嶠ト云石ジヽナレバ大ナレモ住
居ナキ也訓蒙字彙ニ云嶠水底ノ尖石舩行所忌俗称暗嶠トコレニテ
ハ水底ノカクシ岩ヲモ云也吾邦語言ノ簡而粗尤島嶼苫嶠ノミナラ
ス洲渚沚スベテ水ノ抱ク地ニテ混呼メ島ト云今為髦士ノ別
ヲ知ラシム

## 小笠原島

在下田巽東南二百四拾四里此島大ニメ人ノ住スヘキ十島アリ其
他ハ八十餘アレモ大槩石シヽニメ居住スヘカラス昔シ絶テコノ島アルヿヲ
知ラス赤水云文禄年間信州深志営小笠原民部少輔定頼ト者
闢之故ニ惣名ヲ小笠原島モ云又コノ島人無キヲ以テ無人島モ云
鄙俗メツポウ島ト云メウホウハ無量ノ義言其極大也阿蘭陀モコ
ノ島ノ事ヲ知リテウーストユーランドト名ク セオガラーヒノ地理
ノ書ニ出ウーストユーランドハ荒地島ト云義也ト林子平云リ延宝
ノ初紀州ヨリ橘ヲ載タル舩江都ニ往シトメ颶風ニ遇ヒ是島ニ漂着
セリ幸ニ便風アリテ帰ルヿヲ得テコレヲ官ニ告ス縣官乃チ長崎

ノ人島谷氏中尾氏ニ命シ給ヒ唐船様ノ船ヲ造リ長崎ノ善操紹
船ヲ者ソノ外三十餘人旌節ヲ立テ延宝三年閏四月吾豆州下田
ヲ開帆シ先ツ八丈島ニ至リソレヨリ東南ノ洋中ヲ探リ遂ニ八十餘島
ヲ見定ム島谷氏等三人皆頗ル学術アリテ天文ヲモ暁シタル者也故
天度ノ高下島ノ大小及産物ヲテ圖記シ島工表本ヲ建テ日本伊
豆国ノ属島タルヿヲ署記シ是年六月二十日下田ニ帰帆ス
輶軒小録云四月五日ニ官船豆州下田ヲ出船シ七日ニ八丈島ニ付ク九日
晡後ニ八丈島ヲ出テ海路十八里ニテ夜中ニ青島ニ付ク夫ヨリ或ハ東亦
辰巳或ハ巳午ノ間ヲ差行ク此間十里廿里廿里四十里ノ間所々小島
アリ極南ノ大島回リ十五里地形半環ノ如ク西北ニ向湊アリ其東ニ回リ
五里ト七里トノ島アリ江戸房州ノ辺ヨリハ南少ク東ニ當リ午巳ノ
間ニ當ル三百七十二里五町也ト琉球国ノ正面ニ中ル六百里余モ可有
也亦路ニテ回リ三里ホトノ島アリ鄭ナト生茂リ居人無シ白鳥有テ
形白鷗ノ如ク羽先ヨリ羽先ニテ八尺余有リ此モ人ヲ畏レス国語ニ老
鶏鴉ノ類ニテ有ヘキヤ其年ノ六月五日本島ヲ出シヨリ日負十三日ヲ
歴テ十七日ニ下田ニ帰ルト也眉付ノ奥ニ島谷市左衛門中尾庄左衛門
ト有リ此後享保五年正月遠州荒井ノ者海風ニ遇ヒマヽニ
飄着スソノ書上ケ　江戸堀江町宮木善八船ノ沖船頭冨蔵水手
十七人乗書上　元文三年十二月朔日遭難風何ノ比ナリ漂流
シ八丈島ト見立テ流レヨレ比ヤナロス風強カ故也ソレヨリ段々洋中ニ流

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用

レ三十里四十里ホトヽ間ヲ置キ島數八ツ流シ八ツ目ノ島何ヨリ大ニメ
四五十里モ流コレアルヘク見ユ何トソ此島エ上リ命タスカリタノ上リ
場ヲ見ル立ツレ知レス風段〻強キ故無是非船ヲ繫ノ船下シ磯
エ上リ水ヲ尋ル処愈時化コヽニ本船破レ漸ク船ヲ引上ケソレヨリ
島ノヤウスヲ見レハ唐木日本木相交リ松ハ日本松也木樨檳
榔子ノルイアリ廣原モアリ獸ハ一切ナシ禽ハ甚タ多シ方〻見
ツレハ船二千艘餘モカヽルヘキミナトアリ前方見付ハ本船タスリ
ヘキニ残念ノ一也長居スヘカラスト船ヲツクロヒ天氣ヲ見立テ出
船晝夜四日ホト走リ大洋ニテ水盡ノ又ヨホトノ島ヲ見付
ケ水ヲ取ントテ磯ニ上ル時異風ノ人三人出来ル何如ナル人ト問ヘハ

我々ハ遠州荒井ノ者ナルカ前年十一人乗リ外便船一人ハ乙テ
十二人コノ島エ漂流ス船頭便船ニ九人死シ我等三人コレヽテタ
スカリ居ル何トソタスケ乗セ国地エツレクダサレカシトタノム詞ハ
国詞ニテ髪モ皆ヌケ漸クムク毛ノヤウニ二三寸生ヘ面色青黑
眼光リ衣服ハ鳥ノ羽ヲ綴リテ著ル我国ノ人トハ見エス因テ
証據アリヤト問ハ首ヨリ何ヤランハウスコレハ下田關所ノ切手也二
十一年以前漂風ノ一相違ナシ同船ノタスヘキヨシ云ヘハ喜フ
限リナシヒヨリ日和ヲ待チ出船コノ島六七里ホトノ流ノ島ニテ
樹ハ少〻見ユ比多クハ荒山ニテ人スミカタキ島ハ大ヨリ六ツ目
也當四月二十七日彼島開帆丑朔八丈島エ著ノ此船最

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用

初流し着ク島ハ八丈ヨリ三百里モ有シカ
遠州荒井筒山五兵衛船沖船頭佐太夫水主便船人トモ
十二人
享保四年十一月二十六日仙臺小竹浦ヲ出船段々走ル所
九十九里ヽテ走リ同月晦日大風ニ遇ヒ洋エ吹キ出サレ次第ニ風
強ク船モチカタク檣ヲ伐リステ方角ヲ失ヒ漂流ス其上水米
モ盡キ命限リノトコロ翌年正月二十六日島山ヲ見付ケ走リ
ヨリ島山エ上レハ人ハコレナシ因テ水ヲ尋子候内時化込ニ船ミナ破
壞ス因テ十二人ノ者カノ島ヲメクリ磯草魚鳥ノルイヲ取リ
雨水ヲ以テ助命ス翌年己ニ巳ス船一艘コノ島エ流レ来リ磯辺
エ打付ケ破壞ス米積ミ候故年ニ及フタケ取上ケ六七十苞ホトヲ
得タリ因テ糧トスソノ上幸ニ籾一苞上タル故釘或ハ鳶口ヲ石ニテ
打ノシ鍬ニ用ヒ右モミヲウエタレハ實リシ故年々畠ヲウクリ糧トス
右三人タスカリタル者ノ名　甚八　仁三郎　平三郎
壬寅春三月典農司吏命シ諸島及コノ島ヽテ巡撿セシム風
濤ニヨリ岸ニ上ルヿヲ得ス故ニ今撿ルヘキ者島谷氏ノ圖記ニ頃年
仙臺ノ林子平夫圖記ヲ得テ其所ノ著三國通覽ニ附ス余亦林氏
ノ記ニ拠リ又曾テ聞ク所ヲ附記シ以テ一島ニ備フ願クハ後来ノ再撿
ヲ待テ其詳悉ヲ得ントヽ欲ス
今十島ヲ記スルニ一一名ナクメハ分チ難シ而ルニ物ニ名クルハ必ス義ニ聚

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用

所ナシ且地名ナトハ上々人ノ為スヿニテ吾俗小人ハ僭踰ノ罪ノ恐アリ但余今記録ノ分チカタキ為ニ姑ク方角ヲ以テ萬葉假名ニ假リニ文字ヲ為ス

黄龍島（オウリウシマ）　一名父島　周回十五里餘　八丈ヨリ已ニ當ル是ヲ本島ト名ク丑寅ノ方ニ向キ々ル嶴アリ入口ハ二町許リニメ其内ハ甚廣シ濱ハ白砂ニテ五町ニ三町許リノ平地ニ誠ニ極上ノ嶴ナリ何レノ時カコヽニ天照太神宮ヲ祀リテアリ極テ人居ニ宜キ処也延宝中唐船造リノ船コヽヨリ入タリト云コヽノ処ヨリ西ノ方ヱ山ヲ越シ又上ハ嶴アリ小嶴ト云亦平地アリ凡テ此島ニ平地アル処ハ何レモ白砂ノ濱アリ　北ノ端ノ西ノ方長サ五町ニ廣サ三町許リノ平地アリ天村ト云　西北ノ隅ニ方三町許リノ平地有リ此ヨリ東ニ長サ五町廣サ三町ノ平地アリ奥村ト云此海濱ニ村落ヲ為ス（キ）処多シ北極出地二十七度半ノ地也

南島　一名母島又沖島　在黄龍島ノ南二十里　周十里許黄龍島ノ南ニアル故名ク東北ノ方ニ斤嶴ト云アリ亦平地アリ西南ノ方ニ嶴アリ　紀州ノ橘船ハコヽニ着ト云　方四町許リ平地アリ此処ニ火ヲ燃タル様子木ノ伐リロナトアリ外ニモ聚落トス（キ）処アリ北極二十七度

母亀島　一名兄島　本島ノ東ニ在リ海路僅ニ三町ヲ隔周リ七里赤亀甚多シ故ニ名ク西方ニ亦上ノ嶴アリ廣サ六十歩奥エ

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用

百八十歩コノ処ノ山ニ高キ瀑布アリ故ニ濱ヲ瀑布浦ト云故
ニ島名タキトモ云平地ノ砂濱アリ山ニ大木多シ
大樹島（ヲキ） 一名弟島 丹亀島ノ北ニ在リ海路五町周リ五里大樹
極テ蒼鬱翠茂故ニ名ク八丈ヨリノ舩先ヲマヽニ著ク
三里島 一名姉島 南島ノ南ニ在リ周回ヲ以テ名ク亦古木多シ
美瀾島 一名妹島 亦南島ノ南ニ在リ周二里二十町許リ亦林樹
多シ
南嘉島（ナカノ） 黄龍島ト南島ノ間ニ在リ故ニ名ク西ノ方ニ平地ノ
砂濱アリ 林樹茂密
圓嶼島（ミナト） 黄龍ノ西南ニ在リ林樹蓊蔚東ノ方ニ奥アリ入口十三
歩内廣サ六十歩許リ其形口狹ク内圓ク恰モフクロノ如シ故ニ亦
袋嶼ト云海ノ深サ十五尋許リ此島ノ近旁ニ嶼甚多シ
東島 本島ノ北ノ端ノ東ニ在リ
飛岸島（ヒカン ヒカシ） 同上
以上十ノ島人居住スベシ又本島ノ少シ西南島ノ西俱ニ高山アリ又
本島ノ西三十五里ニ金島ト云アリ形ニ因テノ名ク此外八十餘ノ嶼
甚アリ岩石嵬峨トシテ居住スベカラス只産物アルノミ
八丈ヨリ小笠原島ヱ渡ル洋中ニ五嶠アリ皆純石ノ天然ニ産物
ナシ只舟行ノ標準トスベシ

土産

椰子樹（ヤシ） 檳榔子 白欒子 桂 桑 コノ外樟榎（クス）

苦楝（カンダ） 山桝（カチヤノ木） 桜櫚ニ似テ甚タ高キ木是八丈ニアリ
又藤ノ葉ニ似タル大樹是槐カ 又回リ五尺許リニメ高サ三十尋
許リノ堅木有リ 水木樒（島名佐江庭八丈ノ下ニ見ユ） 此木極テ多シ
山帰来 圓葉牽牛花
禽 似皆鷗而大サ三尺餘甚タ多シ居ル八丈ニテ白久島カ
似音呼鳥 似五位鷺鳥 似梅首雞鳥 此等形状未詳多名不可知
凡テ此島ハ人ヲ畏レス徒手ニメ捕フヘシ
金石 五色石 緑礬 礬石 菊面石
海産 鯨 丹蝦 大牡蠣 洋カキ又コロヒカキト云甚タ大ナリ 海膽（ウニ） 赤亀
此外猶珍異ノ物アリ海産ハ別メ奇品アリ但獸類ハ絶テ有ラサレ

延寶三年乙卯八月二日小笠原民部家来渡邊金大夫三田四郎左衛門長野
市左衛門言上之節書上寫

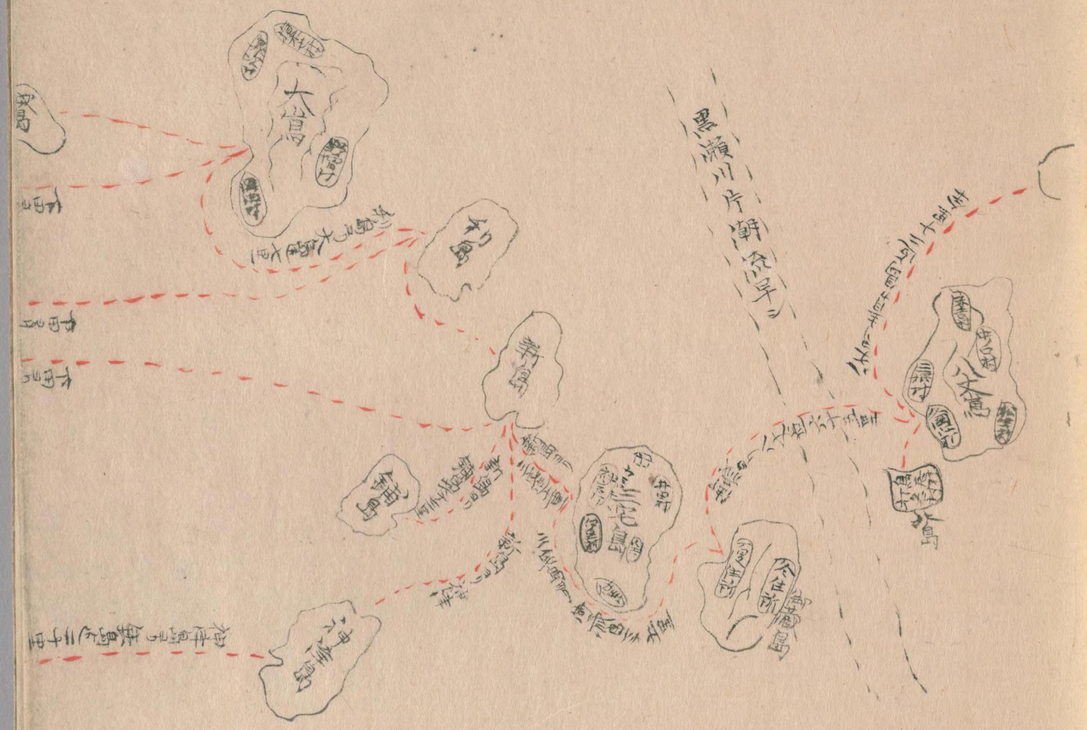
小笠原島 一名無人島

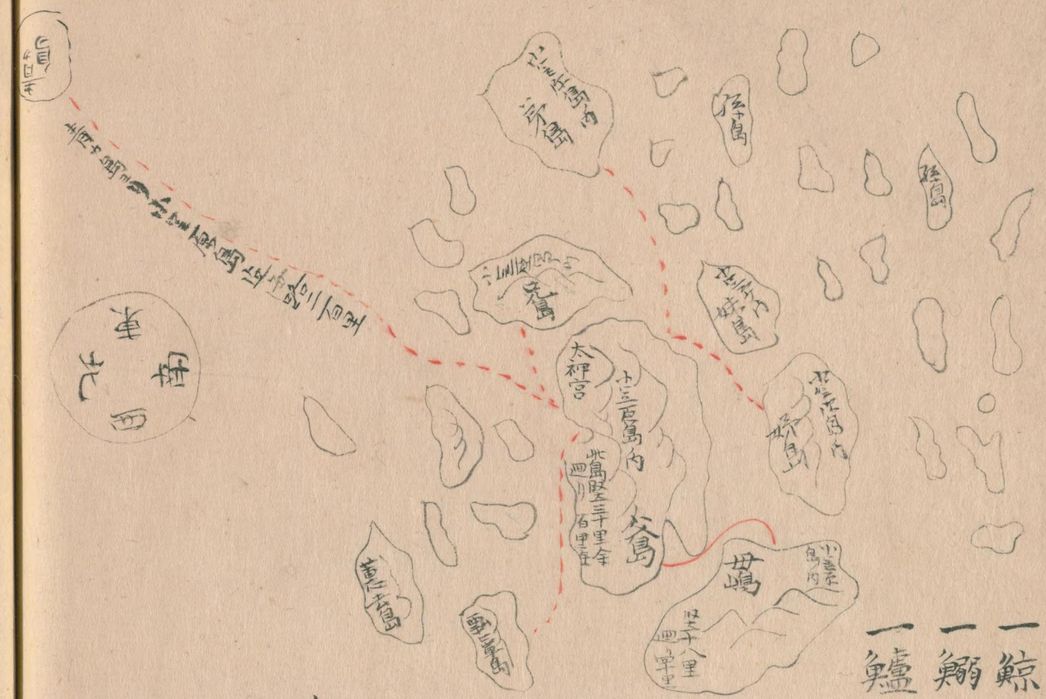
小笠原島凡方百里大小都合九十四島有之此島北極出地三十三度半強ノ國
延寶三卯年閏四月五日伊豆國下田ヲ出帆同七日八丈嶋着九日八丈出船
日數二十一日ニテ無人島ニ着三十七日留見分ス六月五日島出船日數十三日ニテ
下田ヨリ無人島迄海路三百五十里
下田ヨリ帰着ス

無人島土産

一桑（自然ニ生アリ） 一唐苧 一擬 一雑木多 一杉 一烏木（クロ） 一蘇方木
一檀木 一植木 一楚旦 一白檀
一鐵力木 一肉桂 一山椒 一椰子
一八セノ木 一阿蘭香 一ウツウ 一柳（ヒノキ又ハ杉ニ似タモノアリ味ヒテ香附服中痛フモノヲ是ニテ服セハ治ス）
一桃樹子 一大人参 一甘草（日本海松ノ如シ葉ヲ） 一砂糖 一カチセン
一石藥 一青ヤキ 一赤ヤキ（枝サヲ斜ノ也） 一岩山 一真砂
一水精 一金山 一緑青 一紺青 一砂金多シ
一藥艸数品 一唐鳥多 一大鳥（羽ニ向キ十ノ日本白鳥ニ似ル） 一四足鳥（大鵬） 一亀

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用






一鯨　一鱸　一鱸

一鰐魚　柄鮫ニモ可ナリ

一鯛

一鄭

一鯉

一鮐　一昌五寸

一鵜

一メ　四五尺ヨリ一石ニシテ無シ

一鮫

一海老　四三尺ヨリ九ニ一尺五寸ヨリ二尺余

一海鼠　一尺五六寸ヨリ二尺余

一蛸　三尺余

一ニ子

一蒭　銘石

右ノ外名不知珍物色々多シ

一巽類　數品　一貝類　數品

右嶌二箇所杭建置其文曰

日本國天照皇太神宮地嶌　長源家康公幕下

小笠原四位以将民部太輔源頼朝臣

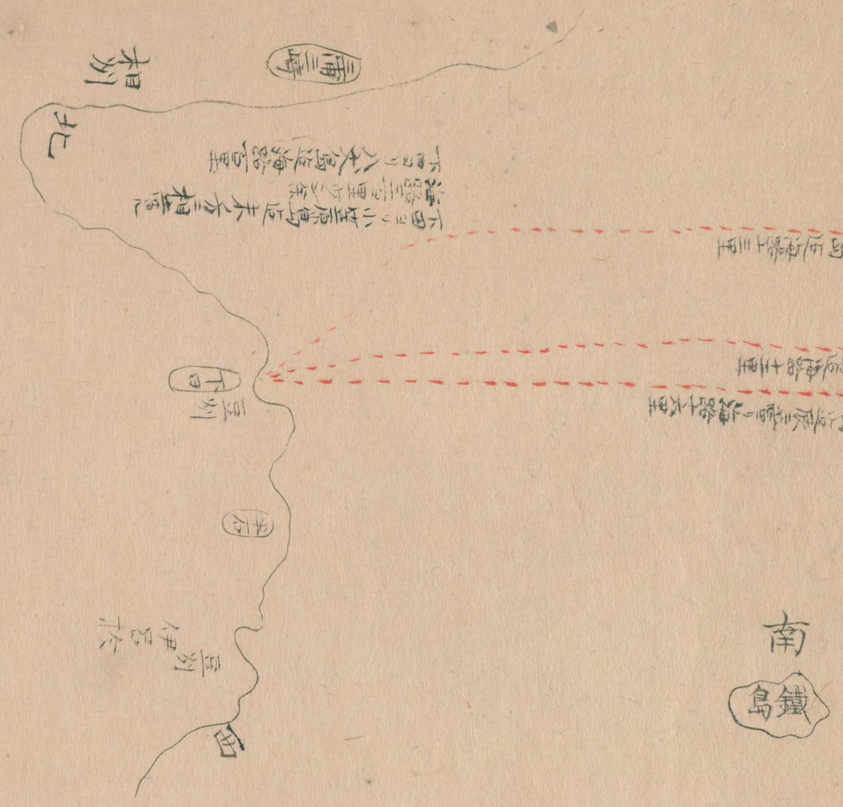
同

日本國天照皇太神宮地嶌長豊蘆原將軍幕下

小笠原民部大輔源頼朝臣

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用

別 14
16




国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『無人島雑記』　請求記号 寄別14-16

ガラス使用